

◎保健福祉学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 教育理念・目的

保健福祉学部では、少子高齢化が急速に進み、保健や医療、福祉を取り巻く環境が大きく変化している時代に、次のような人材を育て社会のニーズに応えることを目的としています。

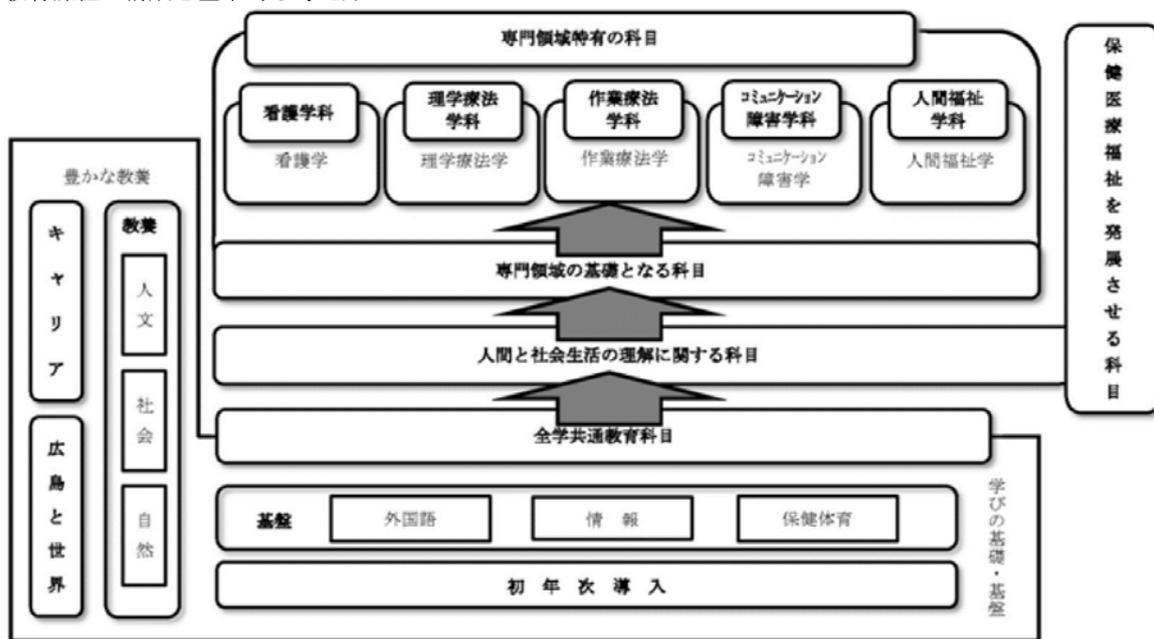
- 1 高度な専門知識を有し、保健・医療・福祉に貢献する人間性豊かな人材
- 2 保健・医療・福祉の総合的実践力を有し、チームアプローチを実践できる人材
- 3 保健・医療・福祉の領域において総合的に教育・研究する基礎的能力を備えた人材

そのため、5学科の連携教育により、専門的な知識や技術のみならず、チームアプローチや地域包括ケアシステムを支えることのできる総合的な実践能力を養う教育を行います。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 専門教育課程の構成方針

(1) 教育課程の構成と基本的な考え方



保健福祉学部の教育課程は、①全学共通教育科目、②人間と社会生活の理解に関する科目、③保健医療福祉を発展させる科目、④専門領域の基礎となる科目、⑤専門領域特有の科目、の5つの科目群で編成されています。

- (2) 保健医療福祉を発展させる科目では、保健・医療・福祉の仕組みやあり方を学び、5学科共同による演習を通して、社会の中での役割を認識し、保健・医療・福祉の連携を図ることができる資質を養います。
- (3) 実習科目では、実践現場における的確な判断力、主体性、創造性などを養います。保健福祉学部附属診療センターなどの活用により、段階的な実習を取り入れるとともに教育と実践との密接な連携を図ります。
- (4) 卒業研究は全学科必修科目としています。

2 専門教育課程の特色

- (1) 5学科共通の総合演習科目により、役割認識とチームアプローチの修得を目指します。
- (2) 臨床・実践教育に重点を置き、地域・社会での活動を可能とする科目を配置しています。
- (3) 小グループ教育を推進し、自主性と創造性を培います。
- (4) 科学的思考や国際感覚を育むための科目を設定しています。

3 学修成果の評価

学修成果の評価については、適正な学修時間を確保したうえで、コースカタログ・シラバスに配点割合を示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、学期中や学期末に行う筆記試験・レポート・実技試験等のほか、授業への能動的な参加度や貢献度を観察したりするなどの方法を用い、総合的に評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

県立広島大学のアドミッション・ポリシーのもと、保健福祉学部には、保健・医療・福祉の対象となる人々に専門的立場からチームワークを通して寄与することができる人材の育成が求められています。

保健福祉学部は、高校で学ぶ基本的知識を身につけ、人に対して関心があり生命に対する倫理観を持った、入学後も生涯にわたり学び続けることができる意欲がある、柔軟性と協調性を有する学生を求めます。

◎人間福祉学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 学修成果

人間福祉学科では、学士課程の学修成果として以下に示す人材を育成します。

社会福祉士と精神保健福祉士の福祉人材として必要な価値観を有し、様々な問題解決の援助を可能とする高度な専門的知識を身につけます。

基礎から応用にわたる専門分野の高度な知識・技術を学び、社会福祉と精神保健福祉の専門分野の担い手としての知識と技能を身につけ、地域包括ケア構築の担い手としてチームアプローチを実践できる、専門知識と技能を有します。

そして、保健・医療・福祉の第一線に立って活躍し、将来、関連職種と連携と協働を図りながら、地域の保健・医療・福祉分野のリーダーとして活躍できる人間福祉の専門家（社会福祉士、精神保健福祉士）となります。

以上のことを踏まえ具体には次のことができる人材を育成します。

【知識・技能】

- ・人間福祉学科で学修した学問内容及び方法を理解している。
- ・自ら設定した課題について、人間福祉学科で学修した研究方法を活用して、考察することができる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・人間福祉学科で学修した学問内容及び方法を活用して、多角的・論理的に課題を分析することができる。
- ・他者の多様な意見を聞くことができる。
- ・自分の考えを言語化し、的確に伝えることができる。

【主体性・協働性】

- ・人間福祉学科で学修した学問内容及び方法を実践し、行動化できる。
- ・地域社会のニーズに応えることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 専門教育科目の構成

人間福祉学科では、水準の高い人間福祉を実現できる福祉人材を育成するために、社会福祉士の国家試験受験資格取得を卒業要件としています。また、選択で精神保健福祉士の国家試験受験資格も取得できます。専門教育科目の構成は、基礎から応用にわたる専門分野の高度な知識・技術の修得及び保健・医療の基礎知識と社会福祉と精神保健福祉の専門分野の担い手としての知識・技能・態度を身につけることができるよう、科目を配置しています。

- (1) 全学共通教育科目
- (2) 人間と社会生活の理解に関する科目、保健医療福祉を発展させる科目
- (3) 専門領域理解の基礎となる科目
- (4) 専門領域特有の科目（共通基盤科目群、応用・関連科目群）
- (5) 専門領域特有の科目（社会福祉士専門科目群、精神保健福祉士専門科目群）
- (6) 専門演習及び卒業研究

2 専門教育課程の特色

包括的な地域ネットワークづくりの担い手として、チームアプローチを実践できる社会福祉士と精神保健福祉士の福祉人材を育成することを特色としています。

- (1) 社会福祉と精神保健福祉の専門分野の担い手としての知識・技能・態度を身につけます。
- (2) 保健・医療職と福祉・介護職のチームアプローチを図れる能力の修得を進めています。
- (3) 社会福祉士養成課程を卒業要件としています。
- (4) 社会福祉士養成課程を基盤とし、希望する学生に対しては、精神保健福祉士養成課程を設置し、2つの国家試験受験資格を取得することができます。
- (5) 履修モデルを具体的に分かりやすく提示しています。
- (6) 実践的スキル向上のために関連科目を充実しています。
- (7) 3年次の専門演習を経て、4年次に卒業研究論文（必修）を作成します。

3 ディプロマ・ポリシーとの関係

4年間で学生各人が学修成果（知識、技能、態度）を達成できるよう、図表のように科目群を配置しています。

人間福祉学科のカリキュラム（社会福祉士関連科目群）とディプロマ・ポリシーとの関係については、4年間で学生各人が学修成果（知識、技能、態度）を達成できるよう、図表のように科目群を配置しています。

表-人間福祉学科のカリキュラム（社会福祉士関連科目群）とディプロマ・ポリシーとの関係

	知識	技能	態度
相談援助の基盤と専門職Ⅰ、Ⅱ、児童・家庭福祉論、高齢者福祉論Ⅰ、Ⅱ等	◎		○
社会福祉援助技術論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、地域福祉論Ⅰ、Ⅱ、社会保障論Ⅰ、Ⅱ、公的扶助論等	○		○
社会福祉援助技術演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ		◎	◎
社会福祉実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、社会福祉実習Ⅰ、Ⅱ		◎	◎
専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究	◎	○	◎

4 学修成果の評価

学士課程全体のカリキュラムポリシーに準じて、能動的な学修を促す手法を積極的に導入し、適正な学修時間を確保したうえで学修成果の評価を行います。

具体的には、コースカタログ・シラバスに配点方法や配点割合を明示し、学期中や学期末に行うレポート課題の提出・筆記試験・実技試験等を行い、一定の基準を満たした学生に対して単位を認定します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1 基本理念

主に、保健・医療・福祉分野において、身体的・精神的・社会的援助を必要とする人々への福祉に関する相談援助などに応じて、関係者との連絡調整を図りながら、包括的な地域のネットワークづくりを先導していく高度な専門的知識・技術と豊かな人間性を備えた人間福祉に資する福祉人材（社会福祉士と精神保健福祉士）を育成することを目指します。

2 求める学生像

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。

- (1) 入学後の学修に必要な基礎学力としての知識や技能を有している人
 - ・高等学校で履修する国語、外国語などの科目についてその内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している人
- (2) 物事を多面的かつ論理的に考察することができる人
- (3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる人
- (4) 日々の授業のなかで積極的に他者とかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している人
- (5) 人間が社会生活を営む上で生じるさまざまな課題に対して、深い関心をもち、社会に積極的に貢献する意欲がある人

3 入学者選抜の基本方針

【知識】

高等学校までに習得すべき学力を求めます。特に、文章や資料を正確に読解する力、社会問題に対する柔軟で幅広い理解力、コミュニケーションの基礎となる語学力（国語や英語など）を持つことを求めます。

【思考力・判断力】

様々な情報を収集して、論理的に思考し、的確な判断や推理を行う力を求めます。

【関心・態度・姿勢】

日々の生活で起きる様々な社会的事象に対して関心を持ち、多様な価値観をふまえながら、自分なりの意見や考えを培う態度や姿勢を求めます。

【技能・表現力】

他者の意見や考えを傾聴し尊重しながら、自分なりの意見や考えを適切に表現するなど、建設的な議論ができるコミュニケーション能力を備えていることを求めます。

【一般選抜（前期・後期）】

高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、大学入試センター試験を課しています。大学入試センター試験では、国語、英語とともに自分の得意とする科目の基礎的な学力を判定します。加えて小論文では、課題に対する読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、点数化して評価します。

また、一般選抜（前期日程・後期日程）における出願書類に「志望理由書」を加え、面接では、志望理由書とあわせて、福祉に対する興味、学修意欲などについて質問し、判断力、表現力、論理的思考力、理解力などを総合的に判断し、点数化して評価します。

【推薦入試】

基礎学力を把握するため、小論文を実施します。小論文では、課題に対する読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、点数化して評価します。

加えて、人間福祉学科志望の動機、勉学への意欲、専門分野への意欲と適性を把握するため、面接を実施し、理解力、判断力、表現力などを総合的に判断し点数化して評価します。小論文及び面接の得点の合計点で可否を判断します。

【外国人留学生特別選抜】

試験は、小論文及び面接です。可否の判定については、小論文及び面接の得点と、日本留学試験の得点の合計点及び TOEFL 又は TOEIC のスコアを総合的に審査し判定します。